

岐阜, 2024. 2. 25

不妊治療以外の子どもを持つ選択肢について ―情報提供時期の検討―

山崎郁子¹, 田邊加代子¹, 森分純子¹, 福田愛作¹, 森本義晴²

¹IVF 大阪クリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

不妊治療を受けても必ず妊娠に至るとは限らない。不妊治療以外の子どもを持つ選択肢についての情報を知ることなく、子どもを持つ事を諦め何年後かに悔しい思いを経験した患者もいる。当院では、先の見えない不妊治療ではなく、先を見据えた不妊治療にすべく、たとえ不妊治療中であっても、特別養子縁組や卵子提供に関する情報を提供する機会を設けている。このような取り組みを通して、患者が求める特別養子縁組や卵子提供に関する情報提供時期について検討したので報告する。

【方法】

対象は 2017 年 6 月～2023 年 3 月に当院で実施した「特別養子縁組に関する情報提供」や「卵子提供の情報提供」に参加した不妊治療患者 258 名を対象に、特別養子縁組や卵子提供に関する情報提供の希望時期についてアンケート調査を実施した。

【結果】

特別養子縁組に関するアンケートの回答数は 125 名（回答率 69.8%）、平均年齢は 41.2 歳、情報を知りたい時期は、治療開始後 1 年までが 41 名（32.8%）、開始前が 34 名（27.2%）、終結検討時が 17 名（13.6%）であった。卵子提供に関するアンケートの回答数は 176 名（回答率 68.2%）、平均年齢は 42.8 歳、情報を知りたい時期は、治療開始後 1 年までが 68 名（38.6%）、開始前が 48 名（27.2%）、終結検討時が 17 名（9.6%）であった。自由記載では「早い段階で情報を得る事で選択肢が増える」「年齢により並行して進めたい」という意見もあった。

【考察】

患者会に参加した不妊治療患者の 6 割が、不妊治療前から開始後 1 年以内に特別養子縁組や卵子提供に関する情報提供を望んでいる。受診後早期から情報提供することで、治療の選択時期を逃さず、より早期に夫婦の将来像について考える機会が得られ、結果として患者の納得した治療選択に繋がると考えられる。今回の検討より、今後は初診後治療開始前や治療開始後早期での、先を見据えた不妊治療の情報提供の必要性が明らかとなった。